

# なは市民協働大学院 2022年度 事業概要書



じっくり、しっかり、ちゃっかり



主催：那覇市（まちづくり協働推進課）  
業務受託者：NPO 法人地域サポートわかさ

ブログ「なは市民協働大学院」  
フェイスブックページ

<https://nahabito2019.blogspot.com>  
<https://www.facebook.com/nahabito/>



ブログ フェイスブック

# なは市民協働大学院 2022 について

## ●事業目的

なは市民協働大学院2022は、地域課題の解決に向けた動きをつくり出すコーディネーター的人材の発掘・育成を目的としています。コーディネーター的人材とは、「地域の現状をしっかりと把握し、課題を発見・定義する視点を持った上で、地域に必要なプログラムをデザインし、その実現に必要な人材や組織をつなぐ（コーディネートする）ことで、地域課題を解決できる人材」です。本事業では、こうした人材に必要なスキルが学べるプログラム構成にしたほか、受講修了後に「地域コミュニティで活躍できる人材」「地域コミュニティをつなぐ人材」になるように促しました。

## ●コンセプト 「じっくり、しっかり、ちゃっかり」

なは市民協働大学院2022では、地域で「じっくり、しっかり、ちゃっかり」活躍できる人材の育成を目指し



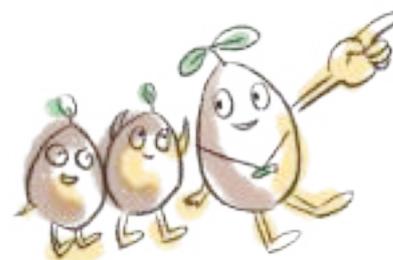
### じっくり

地域の現状を鳥の目、虫の目でじっくり観察、把握して、地域の中に隠れた課題を発見できる



### しっかり

発見した課題に対して、関係する人々をしっかりとつなぎ、しっかりと企画をきちんと実現できる



### ちゃっかり

課題に真摯に取組みつつも、周りのみんなとちゃっかり楽しんで、いつの間にかちゃっかり仲間を増やしている

## ●運営体制

なは市民協働大学院事業の受託者(NPO法人地域サポートわかさ)は、若狭公民館の指定管理者として文部科学省「第70回優良公民館表彰」において最優秀館に選ばれたほか、今年度は「復帰50周年・うちなー地域づくり大賞」特別賞、「国際交流基金地球市民賞」「琉球新報活動賞」を受賞するなど、ユニークな地域づくりの取り組みは全国からも高い評価を得ています。これまでの活動で得たノウハウを活用し、行政(まちづくり協働推進課)とそれぞれの特性を生かしながら協働で講座を企画、運営を行いました。

また、地域で活躍するNPOや各専門家、なは市民協働大学院OBOG等による応援団『チアーズ』を結成し、受講生を伴走しながら応援すると同時に、講座で企画したアクションプランがより実現性の高いものになるように助言や人材紹介などに取り組んでいただきました。

さらに、講座以外でも日常的に意見交換、情報共有が行えるようにFacebookやLINEのグループを作成し、事務局と受講生の距離を縮め、継続的な関係づくりや双方向のサポート体制づくりに務めました。



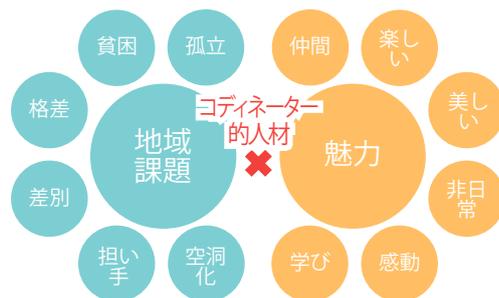
### 受講生の応援団 チアーズ

- 稲垣暁 | 一般社団法人災害プラットフォームおきなわ 理事
- 翁長有希 | キャリア教育コーディネーター
- ★ 屋宜貢 | 那覇市大名小学校区まちづくり協議会 事務局長
- 宮道喜一 | 石嶺小学校区まちづくり協議会 子ども育成部会長
- 金城聡 | なは都市創造探偵団
- 糸数未希 | NPO法人にじのはしファンド 代表理事
- 知念忠彦 | なは市民協議会
- 島田聡子 | 那覇市協働によるまちづくり推進協議会 副会長
- 南信乃介 | NPO法人1万人井戸端会議 代表理事
- 萩原雄三 | なはまちサロン
- 平中晴朗 | チームまちなか 副代表
- 野原巴 | チームまちなか 代表
- 饒波正博 | なは市民協議会 代表
- ★ は、チアリーダー。

# 育成プログラム

## ●地域課題 × 活動の魅力

地域課題の解決には特効薬がないため、市民が主体的かつ継続的に取り組む必要があります。そのため、地域の現状を把握し、適切な課題設定を行うと同時に、取り組み自体を楽しいと思える魅力あるものにしなければなりません。受講生を、地域課題と活動の魅力をかけ合わせ、様々な資源をつなげることができる人材となるよう、そのために必要なスキルや考え方(じっくり・しっかり・ちゃっかり)を学ぶプログラム構成にしました。



## ●実践に役立つ教材活用

教材には『企画づくりのじゃばら手帳』と『協働の手引き』を採用しました。『企画づくりのじゃばら手帳』は、企画の着想からニーズの把握、プログラム作成、そして実施後の事業評価や検証までの思考の流れを整理されるようにデザインされており、『協働の手引き』は、課題解決に向けて動く際に必要となる“協働”の視点について学べるようになっています。講座終了後の実践に活用できる資料となります。



## ●オンラインとオンデマンド教材活用

新型コロナウイルスの影響で、対面での実施が難しくなったり出席できない受講者が出る場合も想定できたため、各講座オンラインで遠隔でも受講できるようにしました。また講義の動画アーカイブとブログでの詳細報告、関係資料を充実させることによって、復習できさらに学びを深めることができました。



## ●不完全プランニングとプラスクリエイティブ

公開講座では、テレビ番組「情熱大陸」や「世界一受けたい授業」に出演経験のある永田宏和氏をお迎えし、課題をひっくり返して楽しい取り組みに変えるコツについて学びました。地域で活躍する人を「風・水・土」に例えてお話いただいたほか、完全無欠の計画ではなく、みんなが参加できる余地のある「不完全プランニング」と活動を魅力あるものにするための「プラスクリエイティブ」をセットで考えることが重要であると学びました。



## ●修了後に繋がるネットワーク

講座は、受講生が活動している、またはしたい地域ごとにチームをつくり取り組み、修了後も活動が継続・連携しやすくなるように促しました。また、関係者へのヒアリングや講座内で各ステークホルダーを交えて企画のブラッシュアップを行うなど、企画の実現性を高めると同時に、修了後にも活かせるネットワーク構築に努めました。



# 全体スケジュール

全8回の講座は、地域課題の発見から解決に向けた企画・運営の一連の流れについて、実行の直前段階まで順を追って学べるプログラム構成にしました。座学や実習をはじめ公開講座、合宿など、すべての要素が繋がり、より学びが深くなるように設計しています。また、講座時間以外でも、必要に応じて相談会や勉強会を設け、受講生が内容を理解し、目標を達成できるように努めました。チアーズは、全体の進捗状況に応じて適宜会議を開催したほか、講座内で受講生への助言を行うなど、伴走しながら企画実現への後押しをし

受講募集



「チアーズ」会議および講座参加



相談会・勉強会

目標設定

第1回



開講式・オリエンテーション

学長挨拶(城間幹子市長)/プログラム説明/チアーズ活動紹介/チーム分け/チーム紹介・決意表明

第2回



総合計画と校区まちづくり協議会について学ぶ/OB・OGの活動紹介

那覇市まちづくり協働推進課、なは市民協働大学院OB・OG(ちーむまちなか・首里グループ)の活動紹介/まち協カルテの説明/作戦会議と役割分担

相談会

調査

第3回



地域課題 × 活動の魅力 **公開講座**  
～不完全プランニングとプラスクリエイティブ

講師:永田宏和氏(KIITOセンター長・NPO法人プラスアーツ理事長)/講話と質疑応答

勉強会

第4回



地域を知る/現状把握と課題設定

調査結果と地域課題の発表(校区選定理由・調査と分析結果)/チーム再編成

課題設定

第5回



企画づくり強化合宿&中間発表 **特別合宿**

ロジックモデル仮説検証/企画アイデア出し/斜にかまえる・かまえないワーク/相互助言/中間発表

企画

第6回

共感を広げるコミュニティ・オーガナイズング

講師:安谷屋貴子((NPO法人COJコミュニティ・オーガナイザー)/講話とワークショップ

第7回



企画ブラッシュアップ/発表準備

各チームの企画に関わるステークホルダー(行政機関・地域団体等)と企画ブラッシュアップ/「プレゼンのコツ」講師:石垣綾音(ファシリテーター)/最後の進捗確認・決意表明

具現化

第8回



最終成果発表会・修了式

【最終成果発表会】 取り組み概要説明/アクションプラン発表/講評

【修了式】 学長挨拶(知念覚市長)/修了証・感謝状授与/修了生代表挨拶



# 講座の様子

第1回  
開講式・オリエンテーション



第2回  
校区まち協/OBOGの活動について



第3回 [公開講座]  
地域課題×活動の魅力



第4回  
地域を知る/現状把握と課題設定



第5回 [特別合宿]  
企画づくり強化合宿/中間発表



第6回  
共感を広げるコミュニティ・オーガナイズ



第7回  
企画ブラッシュアップ/発表準備



第8回  
最終成果発表会・修了式



## ● 相談会・勉強会



# 最終成果発表（アクションプラン）

## 新都心チーム



### 【メンバー】

屋宜智英・金城孝郎  
本永万希子・島袋君子  
神谷美由希・久保田里子

## 新都心「はじめのいっぽ」 たねまきコミュニティ

### ■誰のどんな課題か？

新都心に住むすべての世帯の人に向けて（沖縄生まれ、沖縄育ちの地域家族から転勤族、移住家族まで）コロナ禍で人と会えない話せなくなって情報交換できない不安なひとに、向けて。

隣人や道ゆく人と顔見知りになればなんか困ったことや災害になった時助け合えるために。

### ■企画内容

月に一度新都心公園でスポーツレクやウォーキングラリーを開催。

「島野菜レシピ」がもらえたり、血圧チェックや健康相談しながら、ゆんたくもできる場をつくる。得もして、運動と健康を地域で支えられる企画。ゆくゆくは市民農園などもしていきたい。隣人や道ゆく人と顔見知りになり、困ったことや災害時に助け合える地域を目指す。

キーワードは、「ゆるく、ながく、かかわりつづけられる」こと。



チアーズ  
知念さんのコメント

人に焦点を当てているところ、実例があったのは良い。  
タイトルに「はじめのいっぽ」とあるので、具体的にアクションが起こることを期待している。

## 那覇西チーム



【対象校区】天妃小学校区

### 【メンバー】

松田博之・山内京子・福田適子

## 天妃ぼうさい井戸端会議

### ■誰のどんな課題か？

誰の |

天妃小学校区に住む20代~40代の防災に意識のある人  
どんな課題 |

- ・防災についての正しい知識や情報が不足している
- ・自分ごとになっていない
- ・地域の中での顔のつながりが少ない  
(高齢者、外国人)

### ■企画内容

将来像 | 天妃ぼうさい井戸端会議を参加者主体で開催できるようにしたい。企画についてもみんなで作る場にしたい。

天妃ぼうさい井戸端会議とは | 「ぼうさい」をテーマに知りたい知識や情報、何気ない疑問をみんなで話しあえる場

2023年の目標 | 天妃まち協の方々の中から仲間になってくれるメンバーを5名つくる。



チアーズ  
萩原さんのコメント

助けられる側の人たちも資源として力を発揮してもらおうという発想や準備会のメンバーを50名に増やす仕掛けとして、QRコードを提示して素晴らしかった。

# 最終成果発表（アクションプラン）

## 真和志チーム



### 【メンバー】

石橋孝勇・石橋江里那  
片岡ちあき・南芳

## 行こう！昼の栄町市場

### ■誰のどんな課題か？

栄町市場を囲む近隣小学生と保護者が市場から足が遠のいている。夜の飲み屋街のイメージがあり、暗く酔っ払いがいて危険なイメージがある。昼の市場を知らない人にとっては、どんなお店があるのかわからない、市場の野菜や肉なども高そうなイメージがある、行く理由がないというのが原因としてあるのではないか。

### ■企画内容

お昼の栄町市場の魅力は、お喋りなおじちゃん&おばちゃんに出会え、お買い得で大満足間違いなし。新鮮な県産の豚肉が手に入り、調理方法に合わせてカットしてもらえ、種類や部位も様々で、味付けの肉も選べ、バラエティに富んでおり、シーブンもある。鮮魚店では、野菜や魚も県産で、新鮮な物の選び方を教えてくれる。閉まっているお店は、横のお店の人が販売してくれる。

市場の魅力は市場に実際に行くことで体感できるはずなので、PTAで栄町市場ツアーに参加してもらうなどして、市場の魅力を伝えていく。



チアーズ  
金城さんのコメント

チームの世界観が溢れる発表で、こちらも力を抜いて聞かせてもらった。日常の中で浸透してほしいという思い、自分たちの身の丈にあった企画内容に落とし込めていると感じた。チームオリジナルのツアーをぜひ企画していただきたい。

## 中心市街地チーム



### 【メンバー】

小濱辰也・金城希  
普久原朝日・嘉数慶子  
畑井モト子・宜名真忠  
林立騎

## 市場で三時茶 ~ さんじちゃ

### ■誰のどんな課題か？

那覇市の中心市街地で経済的・社会的に困窮・孤立している高齢者にとって、貧困から脱するための情報に触れる機会や、大人が気軽に相談できる場がなかなかないことが課題。

### ■企画内容

主に高齢者で身寄りがない方、誰にも頼れずにひとりで悩み事を抱えている社会的に孤立している方などを対象として、週末に栄町市場でお茶会を開催。行政機関に相談するのは心理的にもハードルが高いので、まずは、ゆっくりお茶でもしながら語り合うことで不安や孤立感を和らげる。

場所は栄町市場を皮切りに、牧志公園や希望ヶ丘公園、対象となる方が多いエリアをヒアリングしながら、住民の身近な場所で開催していく。

地域包括支援センター、社会福祉協議会、パーソナルサポートセンターなどの機関にも情報提供し、気になる高齢者へ案内してもらい参加者を募る。

参加者のなかに「相談したい」と思う方がいれば、各機関につなげるような役割も担っていきたい。



講師  
安谷屋さんのコメント

何が自分にとって大変だと感じるラインなのか、というのを気軽に話せる状態で、相談できる場所をしてもらえる状態をつくることを目指している企画ということが伝わった。困り事を話してくれることが支援のヒントにつながり、相談者自身も誰かの役に立つという可能性と広がりを感じた。

# 最終成果発表 (アクションプラン)

## 小祿チーム



【対象校区】高良小学校区

【メンバー】

松田敦子・根橋理香  
山川宗徳・與那覇仁  
上原真子

## 朝ご飯 マルシェ

### ■誰のどんな課題か？

地域の顔が見える世代間交流が弱いので、朝ご飯のプロジェクトで地域の顔が見える関係をつくり、交流の充実を図っていききたい。無理せず、気楽に地域の人との関わりが出来たらと思う。

### ■企画内容

「早寝・早起き・朝ご飯」の活動があった高良小学校区。そのスローガンを基に「朝ご飯」に絞り込み、具志エリアのスカイスポーツ駐車場広場で「マルシェ」を開催。

3ヶ月に1回開催し、定着したら1ヶ月に1回開催していく予定。

チームの強みを生かし役割分担(広報、宣伝、食材、キッチンカー、学校PTA、自治会や子供会、包括センター等との調整・連携)し、ボランティアを募っていく。地域の資源等を活用して、地域交流の充実を図っていききたい。

ミライチケットの活用、巡回バスを使って子ども達の送迎も考えている。「朝ご飯の簡単レシピ」を設置することで、「自分でも作れるよ」というメッセージも伝えたい。



チアーズ  
糸数さんのコメント

大きく周知し、キーパーソンとつながり、そのあと地域に下ろしていくという戦略も素晴らしい。学校とうまく連携して成功していただきたい。  
「早寝早起き朝ごはん」を辛いと思う方も排除されない優しい取り組みになってほしい。

## 首里チーム



【メンバー】

山城泰一郎・川間佳子  
赤嶺洋一郎・照屋睦喜  
喜久川忠・下田美智代

## 新入生スタンプラリー祭り

### ■誰のどんな課題か？

地域の住民が、自らの住んでいる地域に何があって何がないのか、危ないところ、素晴らしいところなど、地域の「顔」が見えていない。交通量の多さがそれに拍車をかけている。児童生徒、安全に安心して歩き回ることに難がある。そのため、地域住民同士が知り合う機会も少なく、「顔」もなかなか見えてこない。つながりを避ける人もいるかもしれないが、様々な「もしも」の時にそのつながりはきっと力になる。

### ■企画内容

対象は、城北小学校の新一年生(入学前)とその保護者。「安全に歩けるスクールゾーンを目指して」をテーマにウォークラリー・スタンプラリーを企画。「もしも」のときに駆け込める場所や、スタンプラリー形式でコースを歩いてもらう。

110番の家や交番、地元のお店はもちろん、「先輩」として小学6年生(新中1)に協力してもらい、危険な場所やおすすめの遊び場を教えてください。

開催時期は、小学校の新入生オリエンテーションの頃で検討中。入学の準備で忙しい時期ではあるが、「歩く」ことを通して自分の住む地域を知り、「顔」の見える地域にしていくことができる。



チアリーズ  
南さんのコメント

子どもは親をよく見ているので、親が安心するというのは大事なポイントで、実現可能な企画だと思う。SDGsにもつなげてお話してくれたように、長い目でみた可能性も含めて地域住民にも周知していくと、ゆくゆく大きな伸びしろになると思う。ぜひ、実現してほしい！

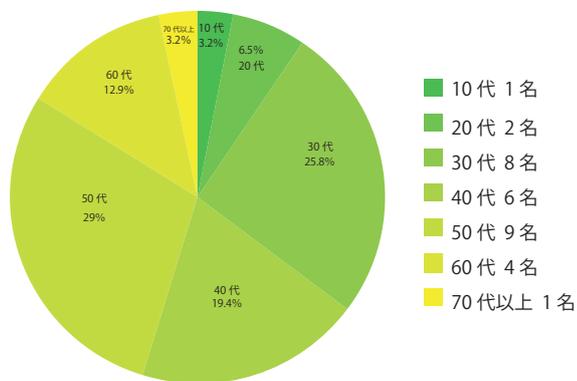
# 受講結果

## ●受講生について

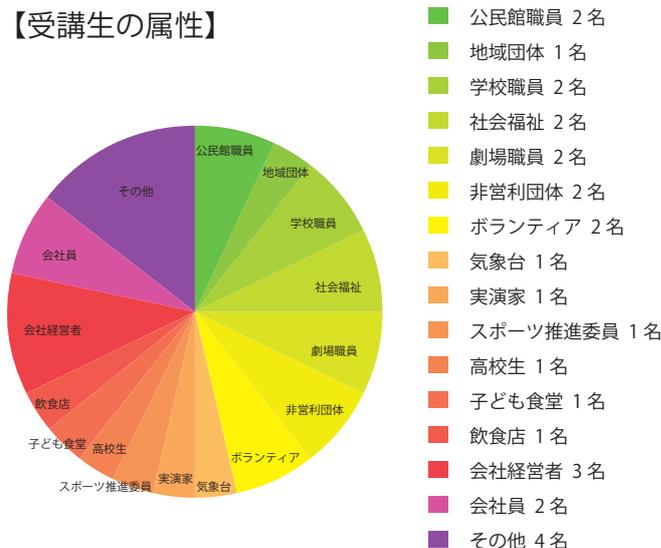
受講生募集については、チラシや那覇市ホームページの他、SNS等を活用し、周知に注力しました。その結果、申込期限内に31名の申し込みがあまりました。世代や属性は幅広く様々で、新規受講率は100%でした。受講生は、すでに地域活動を行なっている方がほとんどで、「なは市民協働大学」の上級編としての位置づけどおり、地域の実情に即した実践的な取り組みを行うことができました。各講座の振り返りを行えるように、資料や動画を公開しました。今年度は、受講生の80%以上となる26名が修了しました。

## 修了生 26名 / 受講生 31名

【受講生の世代】



【受講生の属性】



## ●受講生の声

### 良かった点、印象に残ったこと

- ・地域の特徴を知ることができたことがよかった。一過性ではなく自然に実行できそうな雰囲気印象的で気持ち良かった。
- ・合宿でのオンラインの学習。「斜にかまえる」視点は、今まで考えたこともなかったもので、よく見るようにしています。
- ・共感を広げるコミュニティ・オーガナイズングでストーリー作りが役に立ちました。人に話す時の話の組み立て方やわかりやすさを伝える、大切なポイントを教えていただきました。
- ・企画ブラッシュアップがあって、自分たちのやりたいこと、どんなことができるかをメンバーで再確認できた。
- ・外部講師、チアーズが豪華でした。

### 本講座を通じて学んだことや変化

- ・手をあげる勇気をいただきました。「最初の一步」がふみだせる勇気をありがとうございました。
- ・地域を見る・知る・関わるといった意識が変わりました。自分が住んでいる地域をもっとよくしたい。そのためには、もっとじっくり考えていきたい。じっくり・しっかり・ちゃっかり。その気持ちで考えて見たいです。
- ・地域の中の新しい視点を得られたこと、各地域で実際に活動する方や困ったときの相談先を知れたのがよかった。



## 大学院修了、そして地域へ

大学院修了式では、受講生を代表して新都心チームから本永万希子さん、金城孝郎さん、島袋君子さんそれぞれ挨拶を行いました。不完全プランニングの重要性や異職種と一緒に活動する楽しさを伝えてくださいました。そして、講師、那覇市職員、チアーズ、事務局に向けた感謝の気持ちとともに、手作りランタンのサプライズもあり、感動の代表挨拶となりました。大学院修了後、アクションプラン実現に向けて動き始めたチームもあり、今後の活動に期待をしています。



### 大学院修了生その後の活動

那覇西チーム：防災井戸端会議



ブログ <https://ameblo.jp/10p-31/>

大学院修了後もそれぞれのチームが企画の実現に向けて動き始めたり、地域内の情報共有に努めています。その中で最も活発に動いているのが那覇西チーム「防災井戸端会議」です。

大学院修了前に立ち上げたブログ『天妃ぼうさい井戸端会議(防災居酒屋おやじの会、天妃防災おしゃべりCafe)』は、気象情報に関する豆知識や天妃小学校区の地域活動の様子を投稿するなど、地域の安心安全に向けた情報共有・発信に取り組んでいます。そして修了式の2週間後には、防災に関心を寄せる多分野の専門家、地域人材による「第1回ぼうさい井戸端会議」を開催し、1年でメンバーを5名増やすという目標を大幅に上回る15名のメンバー増を1カ月で果たしました。さらに、東京大学が主催する「チャレンジ!! オープンガバナンス2022」にもエントリーするなど、企画の実現に向けて